

# トビウオ通信 (H30 第 5 号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

## 《平成 29 年漁期の底びき網漁業の動向》

### 小型底びき網 1 種漁業 (かけまわし)

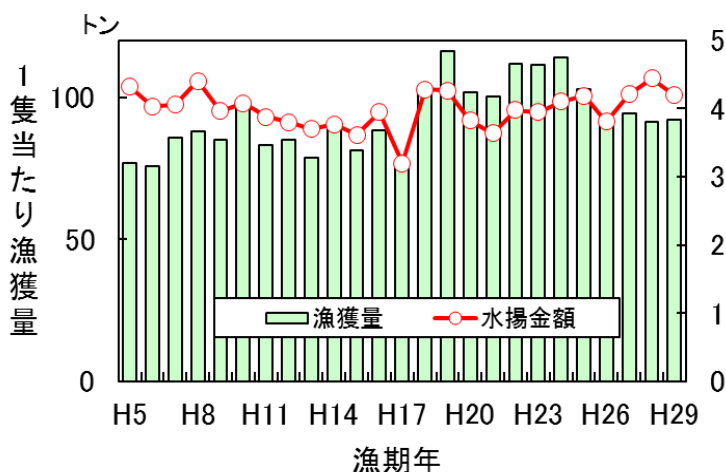


図 1 小型底びき網漁業における 1 隻当たり漁獲量と水揚金額の経年変化

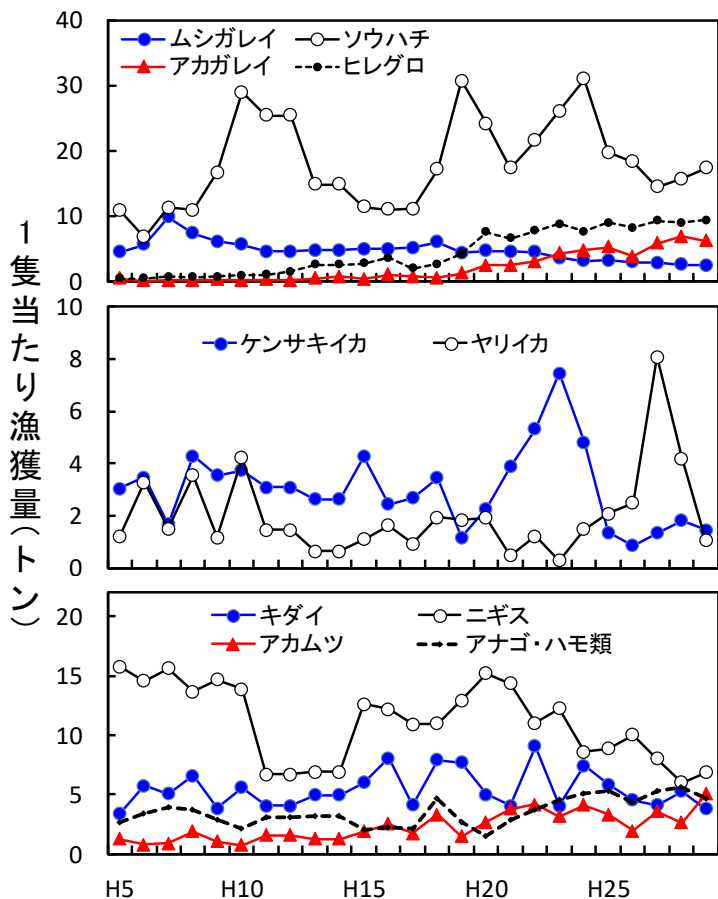


図 2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向

### 1 隻当たり水揚金額は平年を上回る

島根県の小型底びき網 1 種漁業 (かけまわし)

42 隻\*の平成 29 年漁期 (平成 29 年 9 月 1 日～平成 30 年 5 月 31 日) の総漁獲量は 3,791 トン、総水揚金額は 17 億 3,716 万円でした。1 隻当たり漁獲量 (以下、CPUE) は 91.9 トン、水揚金額は 4,198 万円で、漁獲量では平年比を 11% 下回りましたが、水揚金額では平年並みでした (過去 10 ヶ年平均; 103.7 トン、4,040 万円) (図 1)。

\*当漁業における島根県全体の操業隻数は 43 隻ですが、統計は 42 隻分の集計です。

### ソウハチ・ムシガレイは低調

ソウハチの CPUE は 17.4 トンで、前年の 1.1 倍で平年の 8 割の水揚げとなりました。年変動が大きい魚種ですが、平成 24 年～27 年に大幅に減少後、横ばい傾向にあります。また、ムシガレイの CPUE は 2.5 トンで前年並み、平年の 7 割の水揚げとなり、漸減傾向にあります。この他、アカガレイの CPUE は 6.3 トン (平年の 1.6 倍)、ヒレグロの CPUE は 9.4 トン (平年の 1.2 倍) で、この 2 種はここ 10 年ほど増加傾向にあります。また、ヤナギムシガレイの CPUE は 1.1 トン (平年の 7 割) でした。

### ケンサキイカ、ヤリイカは低調

ケンサキイカの CPUE は 1.5 トンで、前年の 8 割、平年の 5 割の水揚げに留まりました。ヤリイカの CPUE は 1.1 トンで平年の 4 割と、豊漁だった平成 27 年以降減少傾向にあります。

### アナゴ類は平年並み、アカムツは好調

アナゴ類の CPUE は 4.7 トンで、平年の 1.1 倍でした。アカムツの CPUE は 5.1 トンで、前年の 1.9 倍、平年の 1.6 倍と好調でした。キダイの CPUE は 3.8 トンで平年の 7 割、ニギスは 6.9 トンで平年の 6 割、アンコウは 6.2 トンで平年の 8 割の水揚げに留まりました。また、ハタハタの CPUE は 2.7 トンで平年の 4.3 倍と好調でした。

## 沖合底びき網漁業(2そうびき) (県西部)

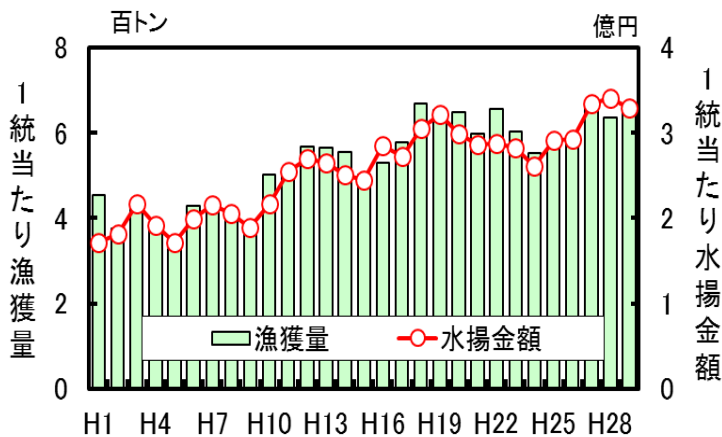


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当たり漁獲量・水揚金額の動向

### 1 統当たり漁獲量・水揚金額は平年を上回る

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業(操業統数 5 統)の平成 29 年漁期(平成 29 年 8 月 16 日～30 年 5 月 31 日)の総漁獲量は 3,297 トン、総水揚金額は 16 億 4,831 万円でした。

また、1統当たりの漁獲量(CPUE)は 659.5 トン、水揚金額は 3 億 2,966 万円で、漁獲量・水揚金額とも平年を上回りました(過去 10 年平均:616 トン、2 億 9,961 万円)(図 3)。

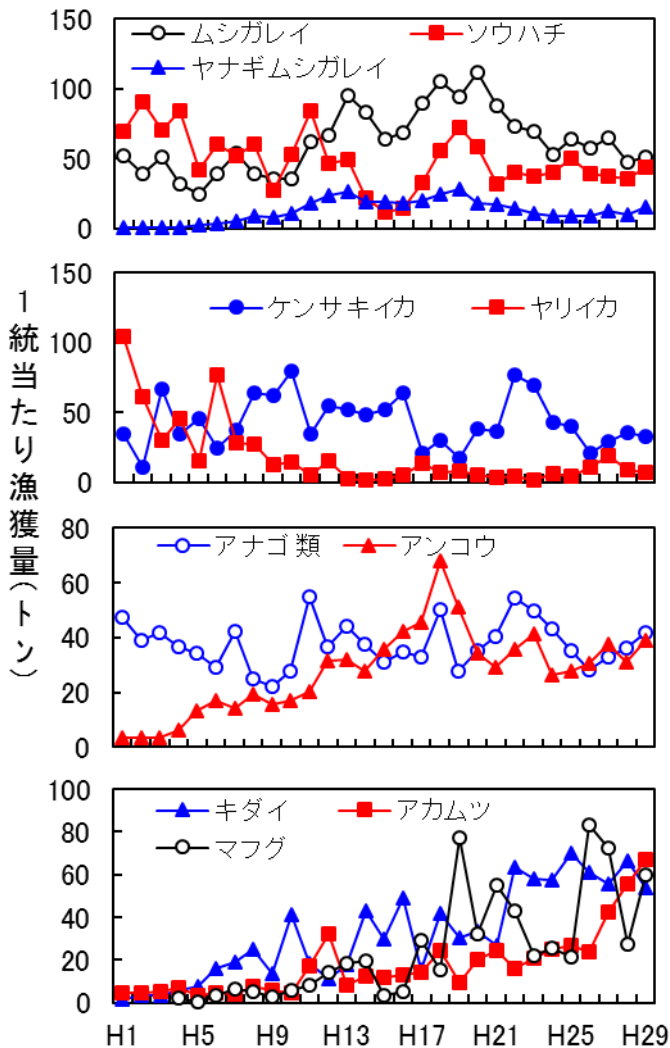


図4 沖合底びき網漁業における主要魚種の動向

### カレイ類 前年を上回る

カレイ類(ムシガレイ、ソウハチ、ヤナギムシガレイ)の CPUE はいずれも前年を上回りましたが、平年と比較すると、ムシガレイの CPUE は 51 トンで平年の 7 割、ソウハチの CPUE は 44 トンで平年並み、ヤナギムシガレイの CPUE は 15 トンで平年の 1.1 倍の水揚げでした。

### ケンサキイカ 低調な推移

ケンサキイカの CPUE は 33 トンで、平年の 8 割の水揚げに留まりました。ケンサキイカは漁期前半は低調な推移でしたが、漁期後半は平年を上回る好調な推移でした。

また、ヤリイカの CPUE は 7 トンで、平年の 1.3 倍の水揚げとなりました。

### アナゴ類・アンコウ 平年を上回る

アナゴ類の CPUE は 42 トンで平年の 1.1 倍、アンコウの CPUE は 1.1 トンで平年の 1.1 倍の水揚げとなりました。

### アカムツ 好調を維持 マフグ 漁獲量の回復

アカムツの CPUE は 67 トンで、平年の 2.5 倍の水揚げとなりました。小型サイズ(メッキン)を中心に水揚げされていますが、平年と比べ今漁期は少しずつではありますが、中～大型サイズ(ノドグロ)の漁獲量が増加しています。キダイの CPUE は 54 トンで、平年並みの水揚げとなりました。

また、マフグの CPUE は 60 トンで、平年の 1.3 倍の水揚げとなり不調だった昨年より CPUE は回復しました。

この他、カワハギ類の CPUE は 13 トンで平年の 7 割、マトウダイの CPUE は 18 トンで平年の 1.2 倍、ニギスの CPUE は 7 トンで平年の 4 割の水揚げとなりました。